

周南市庁舎建設基本・実施設計業務委託に係る
公募型プロポーザルの結果の公表について

1 プロポーザルの概要

(1) 業務名 周南市庁舎建設基本・実施設計業務委託

(2) 業務内容

市民の安心安全の確保及び利便性の向上を図るため、「安心」と「つながり」のまちづくり拠点の実現を目指す新庁舎の建設に向け、基本設計及び実施設計を行うものである。

(3) 履行期間 契約の日から平成 28 年 2 月 22 日まで

(4) 実施の公告 4 月 23 日 (水)

(5) 公開ヒアリングの実施及び最終審査 6 月 15 日 (日) (傍聴者 86 名)

2. 審査及び評価の結果

1) 審査及び評価の方法

技術提案書の審査、評価及び最も優れた技術提案書の選定等は、「周南市庁舎建設設計者選定委員会」(以下「選定委員会」という。)において行なった。

2) 選定委員

委員長 熊野 稔 徳山工業高等専門学校教授

副委員長 目山 直樹 徳山工業高等専門学校准教授

委員 山本 敏文 一般社団法人山口建築士会徳山支部が推薦する者

委員 佐野 千鶴子 周南市民生委員児童委員協議会が推薦する者

委員 村越 千幸子 周南市景観審議会が推薦する者

委員 原田 正彦 山口県土木建築部建築指導課長

委員 青木 龍一 周南市副市長

3) 審査及び評価の流れ

①ヒアリングの実施

【ヒアリング参加者】(五十音順)

梓設計・西部設計共同企業体

株式会社大建設計広島事務所

株式会社日建設計大阪オフィス

②審査結果

【選定結果】(発表者①～③は、公開ヒアリングでの標記)

特 定 株式会社日建設計大阪オフィス (発表者③)

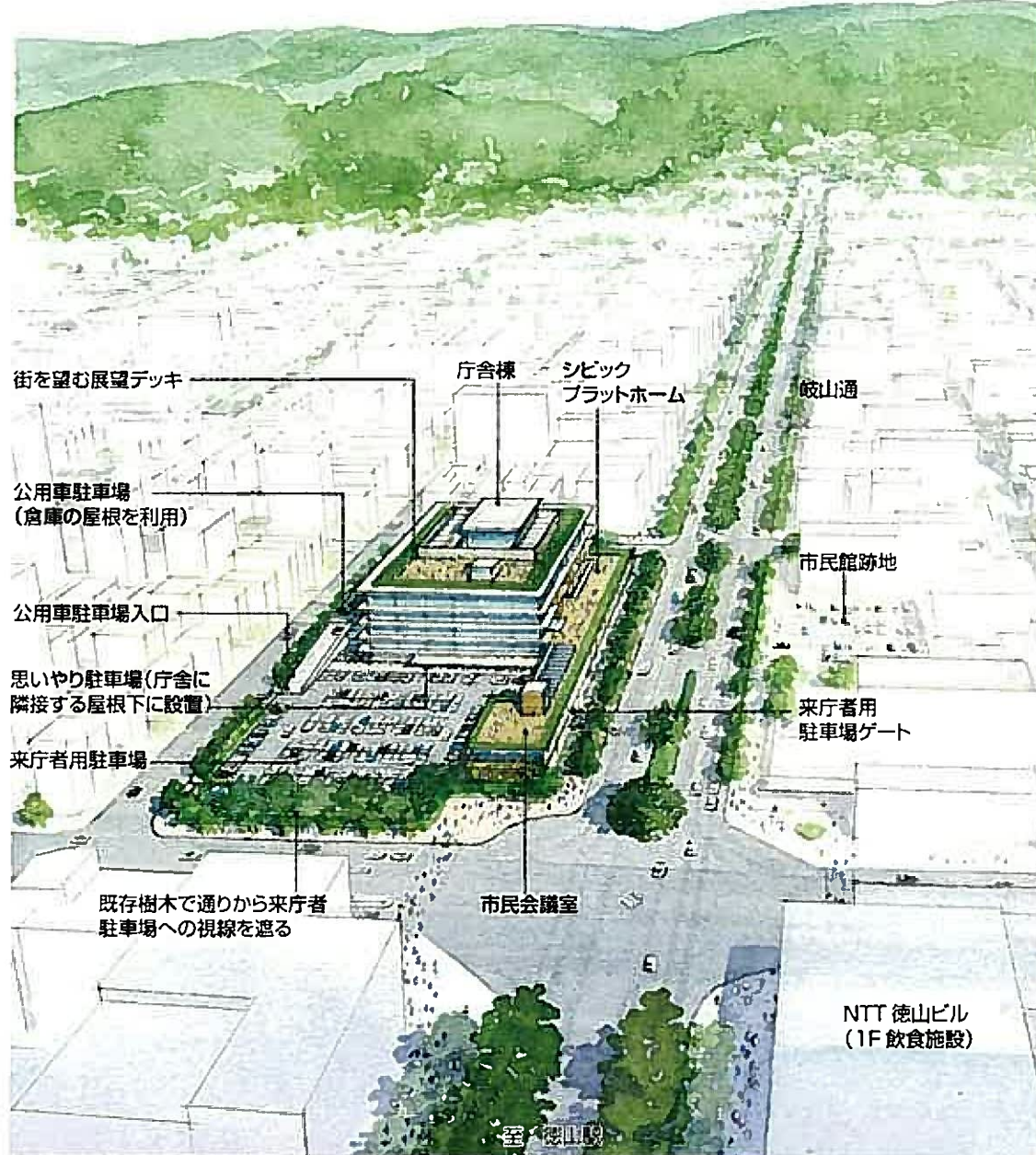
次 席 発表者②

発表者①

市民を守り導き、街を豊かにする庁舎を6つの「S」で実現します

- Shunan** (周南らしさ) 市の歴史や気候風土、岐山への眺望を大切にしたい、市のシンボルとなる庁舎
- Simple** (明快) 合理的な配置・平面計画により、整形でワンフロアが大きい、使いやすい庁舎
- Safe** (安全) 免震構造とノンダウンシステムにより、いかなる時も危機管理と初動対応の中枢機能を維持
- Smart** (情報化) 将来の情報化対応や機能更新が容易で、更新時の影響を最小限に抑える設え
- Soft** (親しみやすさ) 誰もがストレスを感じない庁舎。相談者の「心のユニバーサルデザイン」に配慮
- Saving** (節約) 質実で華美を慎み、自然エネルギーを活かす省エネ庁舎でライフサイクルコストを削減

美しい海の色をうつす青空、岐山の緑、街の緑を大切に、
「私たちが輝く元気発信都市・周南」のステージとなり
市民のにぎわいがあふれる新市庁舎、まちをつくります



新「徳山駅」と新「市庁舎」で相乗効果を発揮し、街のにぎわいをつなぎ、ひろげる市庁舎をつくります

■二つの核で街のにぎわいをつくる

- にぎわいある他市のシンボルロードや、ショッピングモールのレイアウトがそうであるように、2つの集客拠点を配置することで人の流れが活性化します。
- 「まちのプラットホーム」として平成30年度に生まれ変わる新「徳山駅」と新「市庁舎」の二つの核で相乗効果を生み出し、御幸通・岐山通に新たな人の流れを生み、さらに中心商店街や周辺の街のにぎわいを波及させます。

■新市庁舎のにぎわいをつくる

「シビックプラットホーム」

- 岐山通沿いに長さ150m、2階建ての「シビックプラットホーム」を設けます。交差点に面して通りから見えるカフェレストラン(授産施設)や市民会議室(市民館の代替え)、岐山通に面する市民ギャラリーなど、にぎわいを創出する仕掛けをつくります。

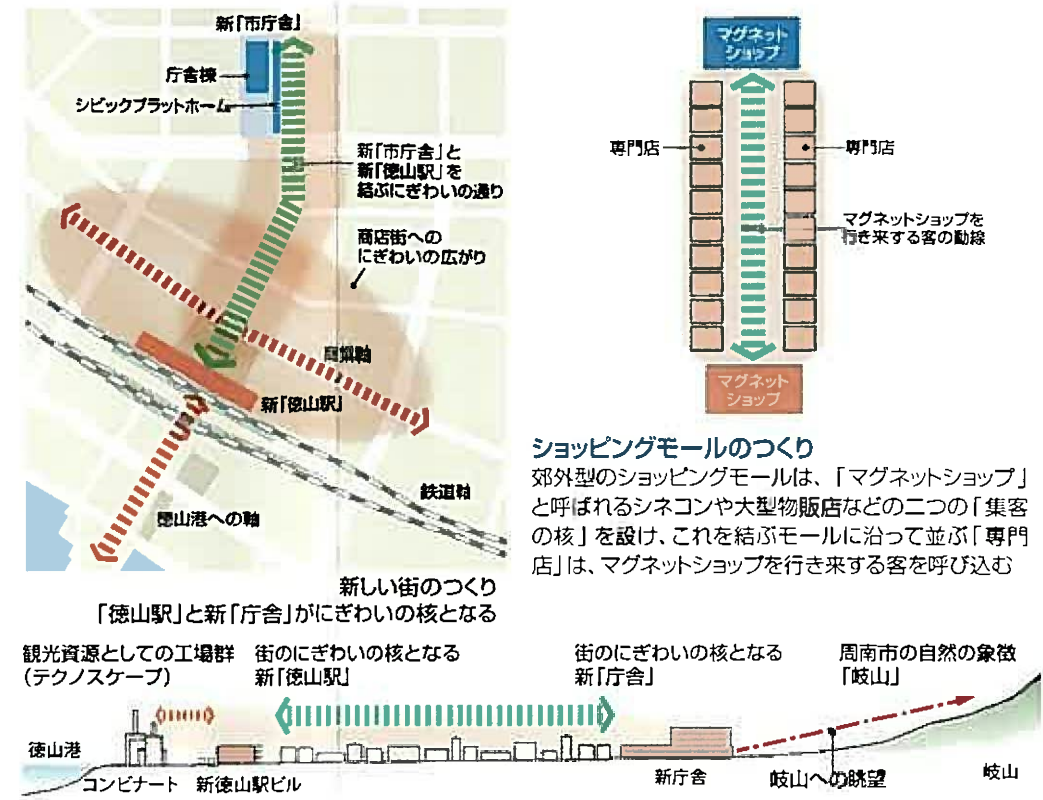
■シビックプラットホームによる工程フローの見直し

- 敷地南東の交差点角にシビックプラットホームによる「にぎわいの顔出し」が、街のにぎわいや景観上、極めて重要であることから、「既存の本館の一部、東本館の位置」と「シビックプラットホーム南側の建設位置」が重なるものの、以下のような全体工程の見直しを行うことにより、その実現を可能にします。
- 東本館の一部(防災アンテナ)を残したまま、庁舎棟とその東のシビックプラットホーム部分を先行して新築します。地下の掘削を浅く抑える免震構造や、5階建ての鉄骨造の採用により、本計画や要項にある庁舎の予定工期24ヶ月を21ヶ月に短縮します。
- 庁舎棟竣工、引越し後に東本館、本館、南本館の解体を始めますが、東本館と南本館を先行解体し、シビックプラットホームの南側の新築(4ヶ月)と解体工事、来庁者用駐車場整備を並行して行います。
- 既存庁舎先行解体から来庁者駐車場整備、シビックプラットホーム南側の全体竣工までの工期は32ヶ月であり、要項にある35ヶ月から3ヶ月短縮することができます。ただし、引越し時期を窓口の繁忙期を避けた7月にすること、また、万が一の入札不調による予備期間を見込み、着工時期に3ヶ月のゆとりを確保できる工程フローを検討します。

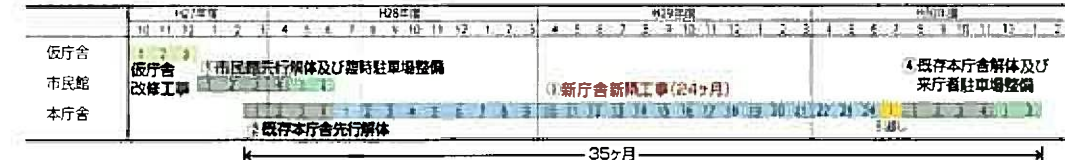
■市民館の解体前に代替会議室となる

「市民会議室」を先行新築する可能性を検討

- さらに新庁舎建設に先立ち市民館が解体され、新庁舎竣工までの間、市民館にある市民が利用できる会議室がなくなることから、敷地南東の角地(現庁舎南の来庁者駐車場)にシビックプラットホームの一部である市民会議室を先行建設する可能性を検討します。
- 来庁者用の駐車台数が減らないように、中央の植栽部分を駐車場に改修して必要台数を確保します。
- 「市民会議室」の先行新築については、発注年度毎のご予算や発注方式、発注期間など、多くの調整が必要であることから可能性を慎重に検討します。



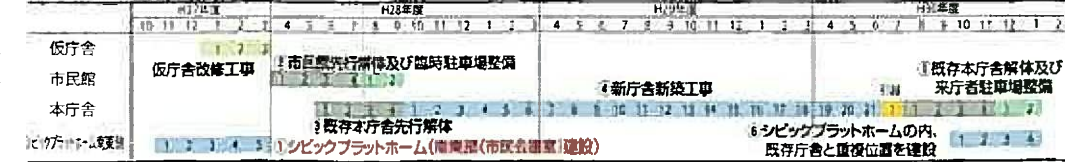
基本計画の工程



提案工程



市民会議室先行型の工程



市民協働の「まちづくりの拠点」として、市民に永く親しまれる市庁舎を目指して

庁舎整備の理念として掲げられた「まちづくり拠点」という言葉には、「庁舎を行政のみならず、市民・事業者の知恵と力を結集し、市政運営に活かしていく中核的な場にしたい」という思いが込められているものと考えます。

市民協働の場として使われている姿が見え、その拠点であることを永く発信し続けられるよう、新市庁舎のシンボルとして、交差点や岐山通に面する一番大切な場所に市民に開かれた、にぎわいをつなぐ「シビックプラットホーム」を提案します。



■ 岐山通りににぎわいをつくるシビックプラットホーム

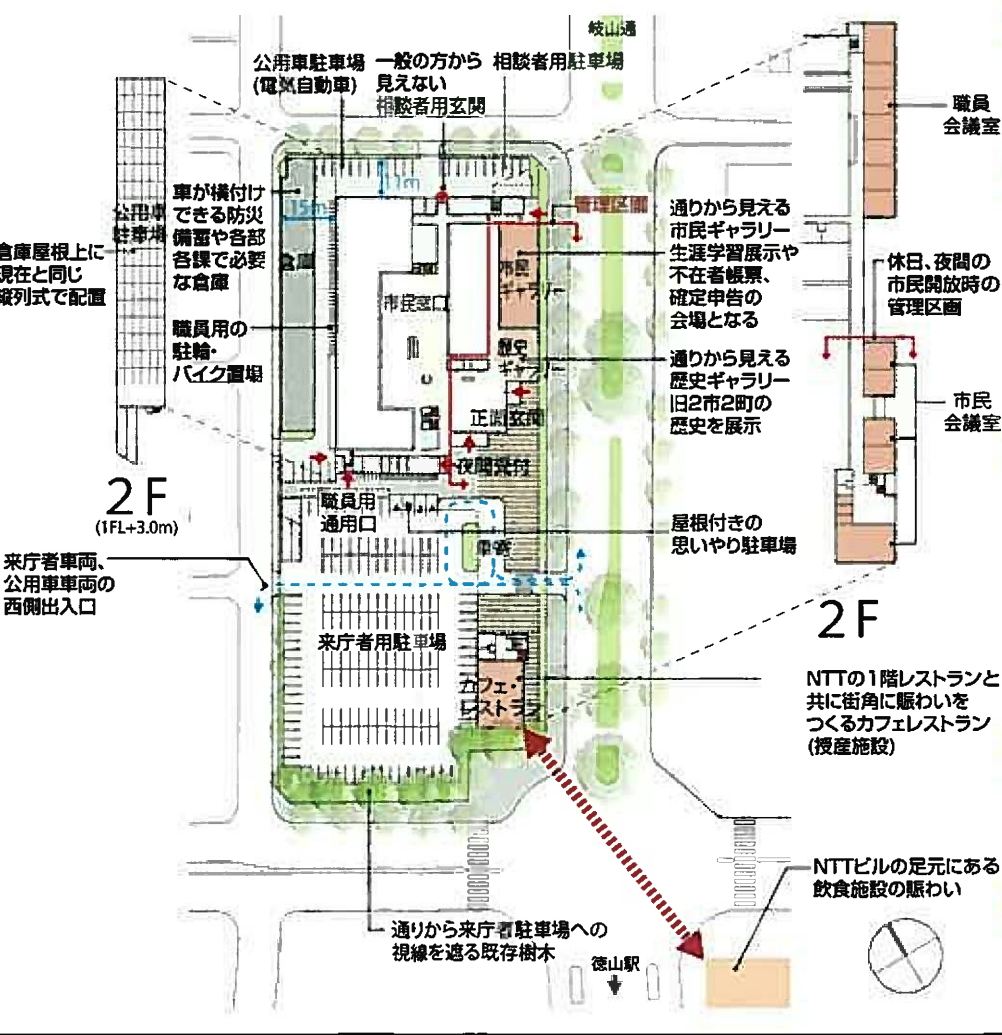
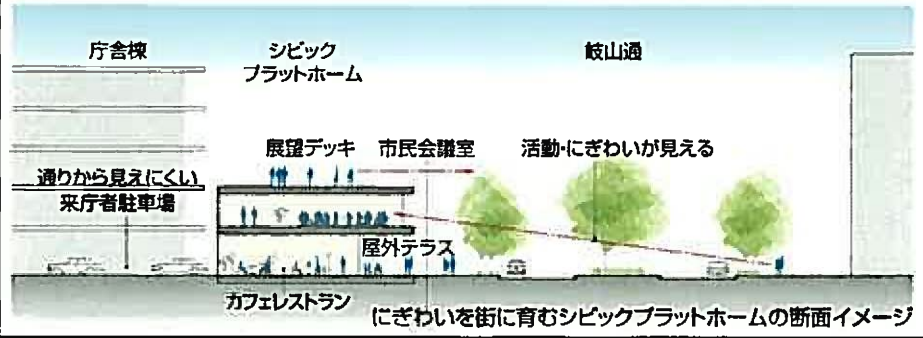
- 新市庁舎が街のにぎわいの核として生まれ変わるよう、駅前からつながる岐山通ににぎわいの核となる長さ150m、2階建ての「シビックプラットホーム」をつくります。
- 「シビックプラットホーム」は、市民の活動や、職員の活動が通りから見えることを大切にします。

■ 街角のにぎわいをつくるシビックプラットホーム

- NTT 徳山ビル1階の飲食施設と呼応するよう、南東の交差点角に1階にカフェレストラン(授産施設)、2階に解体される市民館の代替の市民会議室を設け、交差点に面してにぎわいの顔をつくります。

■ 通りににぎわいをつくる 歴史ギャラリーと市民ギャラリー

- シビックプラットホームの北側(庁舎棟の東側)の1階、岐山通から見えるように、合併した2市2町の歴史を展示するギャラリー、市民の生涯学習活動展示や、不在者投票、確定申告の会場にもなる市民ギャラリーを設けます。
- 2階には会議室を設け、職員が街のために働く姿が見えるようにし、休日、夜間は市民開放することもできる配置とします。



■ 岐山への眺望と、通りの歩行者に圧迫感を感じさせない庁舎構成

- 街へにぎわいをつくりながら、岐山通に建物の圧迫感を与えず、岐山への眺望の広がりを得るよう、2階建ての「シビックプラットホーム」の奥に5階建ての庁舎棟を設けます。

■ 南側、交差点に近い来庁者用駐車場が「顔」にならない工夫

- 大きな駐車場が県道下松新南陽線や交差点から見えにくいよう、岐山通側にはシビックプラットホーム、南側には既存の樹木を残して目隠しとします。



■ 西・北の住宅地への日影を最小限にする配置

- 西・北側の住宅地への日影を最小限にするよう、庁舎棟は5階建てに低く抑え、道路境界線より西側は15m、北側は11m、建物を離します。
- 庁舎棟の西側には防災備蓄品やイベント物品を収納する平屋建て倉庫(700㎡)を設け、西側は電気自動車専用の駐車場とプライバシーを気にする相談者用の駐車場を設けます。



■ 敷地を有効活用する屋上駐車場(公用車駐車場)

- 公用車駐車場は、階高さ3mの倉庫の屋根上に設け、現在の庁舎と同様の縦列型駐車場として、敷地を有効に活用します。



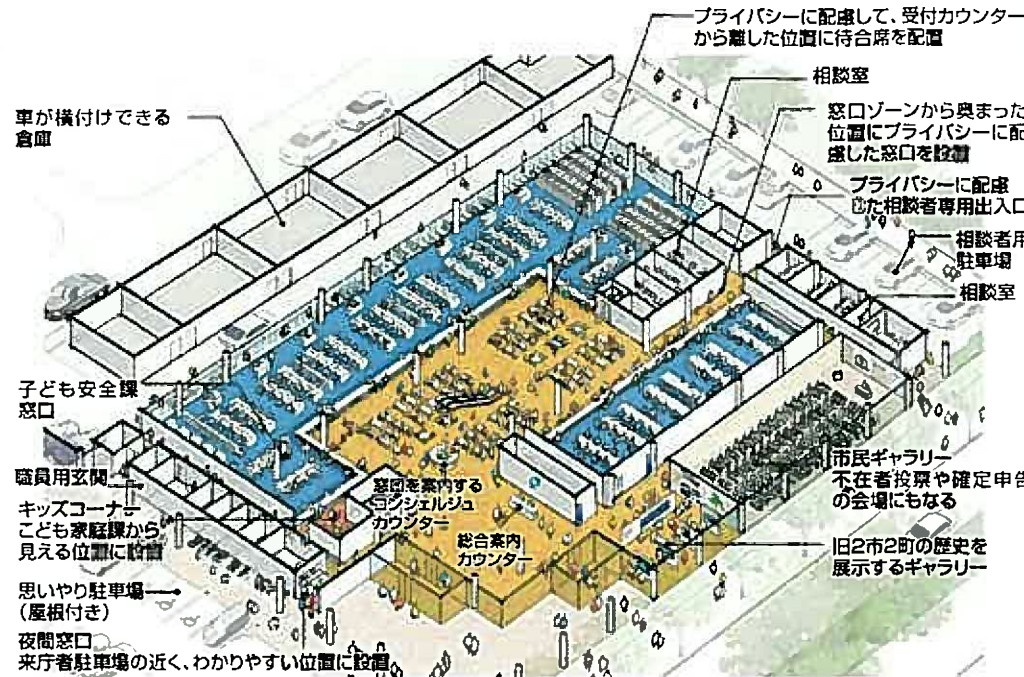
■ 子ども連れ来庁者にやさしい思いやり駐車場

- 庁舎棟の南に隣接して、屋根付きの思いやり駐車場を設け、身障者や子供連れの来庁者が雨に濡れず乗り降り、来庁できるようにします。

市民にわかりやすく、フレキシブルでユニバーサルな庁舎をつくります

■行き先が一目でわかるワンストップサービスのコの字型市民窓口

- 1階に市民が訪れる頻度の高い市民課や、高齢者・障がい者支援課などの窓口をまとめ、2階に税務関連などの窓口を設けます。
- 相談内容に応じて受付窓口を案内するコンシェルジュカウンター(円形カウンター)を中心に、全ての市民窓口カウンターがコの字型に並びわかりやすい配置とします。
- 東西のカウンターの間隔は19mとし、目が届き行きやすい距離とします。
- プライベートな相談は、コの字型カウンターの奥まった位置に、さらにその奥には相談室を設けます。



■一目で庁舎の構成がわかる吹抜と直線階段

- 執務フロアのある4階までの吹抜を設け、庁舎の構成が一目でわかり、職員の活動が見渡せる庁舎をつくります。
- 吹抜の屋根(5階床レベル)にトプライトを設けて、自然光を採り入れる明るい市民窓口をつくります。
- 階と階のコミュニケーションを良くするために、階高さを3.7m程度に低く抑え、吹抜に面して昇り降りが容易な直線階段を設けます。
- 各階の直線階段脇に職員同士、市民と職員が相談できる打合せコーナーを設けます。



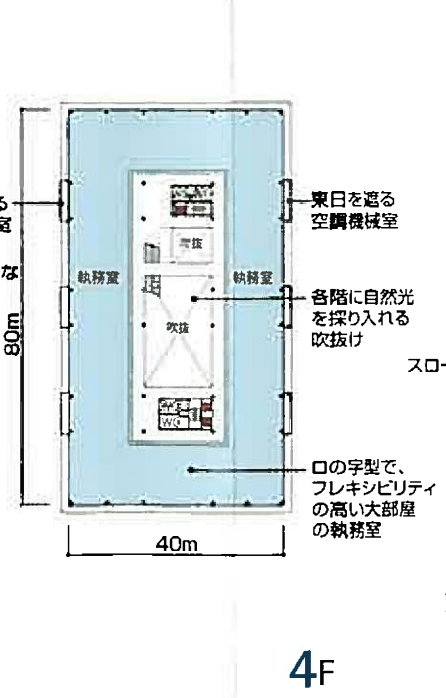
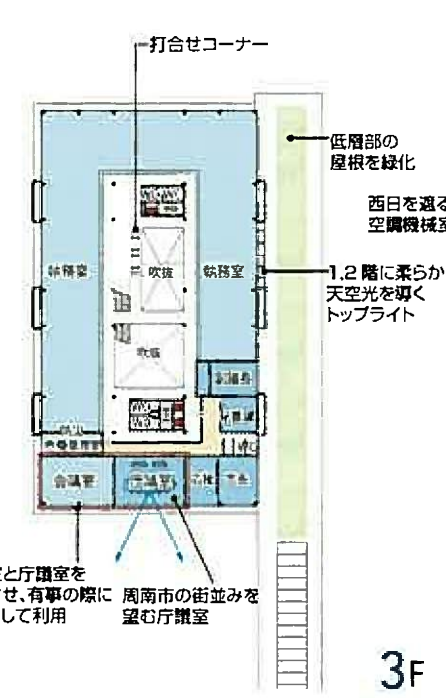
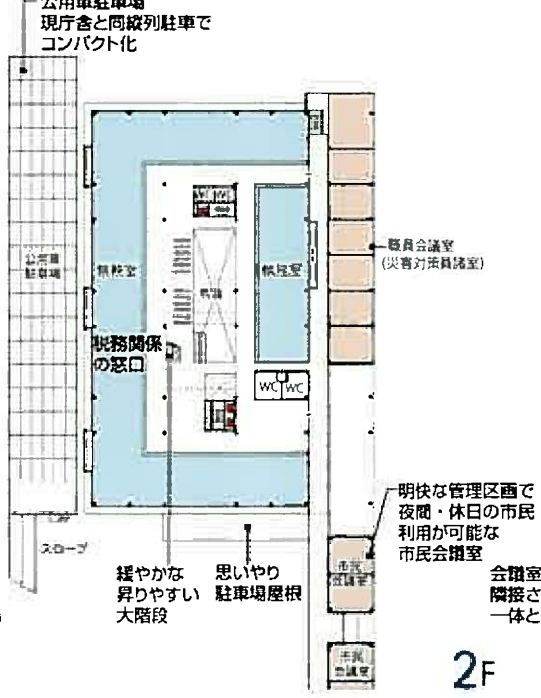
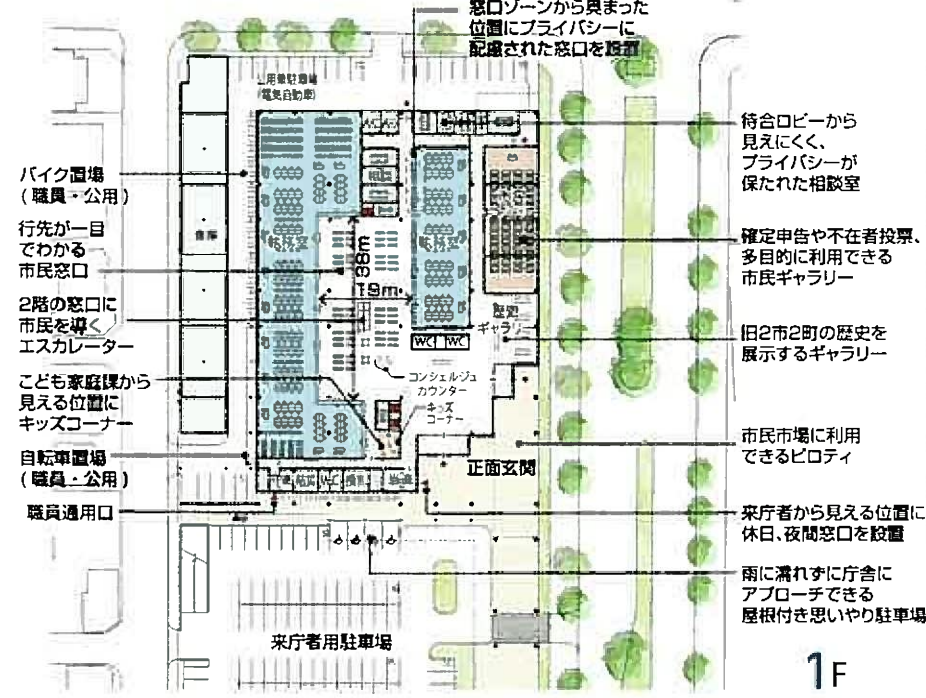
吹抜のオープンな直線階段で、ほとんどの職員は階段を利用する庁舎の事例



吹抜のコーナーに設けた打合せコーナーを持つ庁舎の事例。簡易な打合せは打合せコーナーで行うことで会議室の利用頻度を抑える



庁舎のつくりが一目でわかる吹抜



■見える、出会う、語るを大切に80m×40mの口の字型執務室

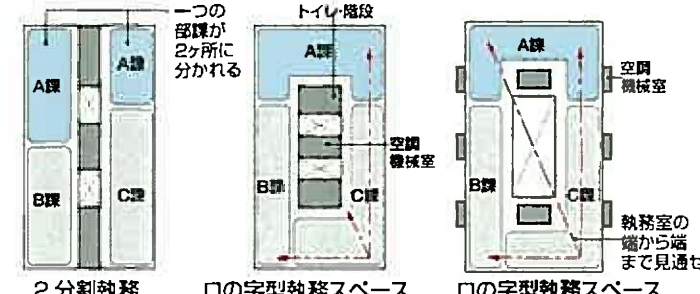
- 連携の良い行政活動のために、互いの執務室が見え、コミュニケーションが図りやすく、訪れやすいことが大切です。
- 吹抜を囲む口の字型平面として、中央のトイレ、階段、エレベーターは南・北にコンパクトにまとめ、空調機械室や設備シャフトは外壁側に設けることで、フロアの端から端まで視線が通るコミュニケーションの良い執務フロアをつくります。



見通しの良い大きな執務室

■組織変更に伴うレイアウト変更の自由度の高い執務フロア

- レイアウトの変更に容易に対応できる口の字型に執務スペースが連続する構成とします。
- 中央に視線を遮るコアは南と北にコンパクトにまとめて、端から端まで見通しの良い執務フロアをつくります。



コアで執務スペースが分断されると、一つの部署が二つのゾーンに分かれることがある
 コアを最小限にして、レイアウトの自由度と一体感、コミュニケーションを実現

■周南の自然と街を見ながら、街の未来を考える

- 市の方針を決定する主要諸室は、岐山や街を望む位置に設け「街を見ながら街の未来を考える」場とします。



温かな地産の木材で包まれ、岐山を望み、街の未来を考える議場